

「仲間とともに、運動の楽しさや喜びを味わい、生活に生きる体育学習」を目指すことで、運動好きな児童を育てる。～「1日1回外遊び」で体力向上～
大分県由布市立挾間小学校

全校児童数	593名(男子315名 女子278名)		
全クラス数	25	教職員数	46名
体育専科教員訪問学校数			3校
訪問校	川西小学校・阿南小学校・東庄内小学校		
体育専科教員名			江良 信司

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

- ◆社会体育等で常時身体を動かす児童と、そうでない児童の運動機会の格差。
- ◆児童の少子化、広範囲な校区、習い事の多さ、室内遊びへの偏り、などの影響もあり、本来遊びを通して培えるはずの「運動神経」が育ちににくい環境にある。
- ◆過去の体力調査では「柔軟性」「持久力」が全国平均を下回っていた。
- ◆昨年・本年度もコロナ禍で、運動不足の影響から、肥満化傾向の児童が増えている。

2 取組の計画

- ①仲間と見合い・教え合いをすることで、技のポイントが理解できる授業を実践し、体育好き、運動好きな児童を育てる。低体力層の児童も運動好きに（本務校/訪問校とも）
 - ・「めあて」を達成するための効果的な「場の工夫」を行う。
 - ・見合い、教え合いで仲間と関わらせ、技能を身につけさせる。
 - ・有効的なTT指導のあり方を研究する。
- ②庄内、湯布院への訪問指導で、体力向上プランの実践の検証、効果的なTT指導や「場の工夫」、関わり合いによる見合い・教え合い学習を進め、体育好きの児童を育てる。
- ③挾間小体育部会と市教研体育部会で、指導主事を招聘しての公開授業を実施。
- ④由布市体育主任会で一校一実践の情報交換を行い、由布市全体で体力向上を図る。

Do：実践内容

1 体育授業の工夫（めあて&振り返りの定着）

(1) 授業始まり

- ①学年の発達段階・個々人の運動能力に応じた、サーキットトレーニング（屋外）・柔軟運動（体育館）の設定。
- ②単元に呼応した、準備運動の設定。

(2) 授業の展開

- ①毎時間、「運動の技能」に限定した、「めあて」の確認時間を確保し、目的を明確にさせて授業に臨ませた。
- ②めあての設定に関しては、活動内容によって、全員同じめあてで取り組ませたり、個人の技能レベルに合わせて複数のめあてから選択させたりした。

(3) 授業の振り返り

- ①振り返りを各自でつぶやかせたり、代表者に発表させたりした。
- ②教室での空き時間を利用し、振り返りを記録に残し、次時につなげさせた。評価の参考資料にもなった。

2 実践授業での指導法の研鑽（モデル授業の活用）

- (1) 専科教員の実践授業をタブレットで撮影し、その動画と指導案を参考に、各担任が授業を行う。
- (2) 各クラスの授業動画を、全クラスの担任と専科教員でタブレットを介して共有し、授業改善の話し合い材料として活用した。

3 外遊びの充実

(1) 遊具の開発・遊び場の設置

- ①竹馬を授業で扱うことで、遊び時間の中にも浸透した。上級生が下級生に教える場面が増えて、竹馬を通しての異学年コミュニケーションが出来上がっていた。
- ②「コーン鬼ごっこ」の遊ぶ場・時間の確保を行った。
- ③休み時間におけるドッジボール遊びの頻度を上げるために、コートを用意を事前に行った。

(2) 「投てき力」向上を目的とした取り組み。

- ◎ロープとバトンを利用して、遠投教具の設置を行った。

(3) 昨年・一昨年に引き続き、「鬼ごっこ遊び」の普及

- ◎自校では休み時間・訪問校では授業の中で「セブストレジャーズゲーム」「アイコンタクトゲーム」の普及活動を継続した。

●工夫したこと（&苦労した点）

- ①授業時のめあての持たせ方は、ホワイトボードを利用し視覚にも意識づけた。
- ②授業の振り返りは、「振り返りカード」を使用し、担任と協力して継続的に取り組ませた。
- ③個々人のタブレットを授業で活用させることで、児童に自身の演技・競技を即座に確認させることができた。

Check：取組の成果

- ①アンケートの「めあてを理解し、学習の振り返りをすることが出来た」が、両学期ともに100%達成。

※他教科の平均：一学期 89.0% ⇒ 二学期 92.3%

- ②アンケートの「天気の良い日は、外遊びをした」が、
一学期 76.0% ⇒ 二学期 76.6%
- ③アンケートの「体育の授業で、楽しく運動に頑張る」が、
一学期 93.0% ⇒ 二学期 95.2%

Action：今後の課題

- ①各クラス担任による、同一レベルでの体育授業実践を行うために、IT機器の積極的な活用が必要不可欠。
- ②タブレットを個人持ち出来ている有用性を、授業に活かす。
- ③「運動能力テスト」「運動会」「その他の体育的行事」を見据え、体育授業・外遊びとリンク出来るように計画を立てる。

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

- ・効率的な授業運営（準備・片付け・TT・ICT機器の活用）を行うことで、運動量の確保が出来る。休み時間の遊びを充実させることで、同学年・異学年間のコミュニケーション作りに役立つ。全校が、一つの目標の元に体育授業を行える。

授業風景



外遊びの風景

